

思いっきり体を動かし、全力で運動に挑戦する児童の育成

～ 特別支援学級における主体的・対話的で深い学びのある教科別の指導「体育」の授業の実践 ～

熊谷市立熊谷西小学校 教諭 堀部 慧

I はじめに

障害のある、なしに関わらず、多くの児童にとって、友達と関わりを持ちながら体を動かし、汗をかく活動をすることのできる「体育」の授業は、好きな教科を聞き取った際、常に上位に位置する教科である。本校の特別支援学級の児童へのアンケートでは、「体育の授業が好き」と答えた児童が22人中、16人となった。反面、「授業で何をしたらいいのかわからない」「楽しくない」といった感想を持っている児童もいる。

本研究では、単元計画やルール、教具を工夫した授業を実践し、特別な支援を要する児童でも全力で運動をし、運動の楽しさを十分に味わうことができるようにすることを目的とした。

II 研究の仮説と手立て

特別な支援を要する児童でも主体的に参加することができる体育授業にするために、次のような仮説をたてた。

技能のポイントをしぼり、単元計画やルール、教具を工夫することで、児童一人一人ができる喜びを味わい、技能を向上させることができるだろう。

仮説を検証するために、主体的・対話的な授業にするための視点、深い学びのある授業にするための視点に分けた手立てを、ボールゲーム領域の学習において実践を行った。

(1) 児童が主体的に取り組むための手立て

○ 学習課程の工夫

- ・ 学習課題のストーリー化
- ・ 1時間ごとの技能面での学習内容の明確化

速く駅まで走れるように、速くに投げよう！									
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
集合・整列・あいさつ・健康観察・準備運動									
スキルアップタイム→基礎動作を真に行ける。(紙ごっこ)									
わらわ①									
わらわ②									
わらわ③									
わらわ④									
わらわ⑤									
わらわ⑥									
わらわ⑦									
わらわ⑧									
わらわ⑨									
わらわ⑩									
1時間ごとの技能面での学習内容を明確にする									
まどめ・せしめ運動・まどめ・あいさつ・あいさつ									
1時間ごとの技能ポイント	手を動かした投げ方	手を動かした投げ方	ゲームの投げ方	ゲームの投げ方	ゲームの投げ方	ゲームの投げ方	ゲームの投げ方	ゲームの投げ方	ゲームの投げ方

○ 教材・教具の工夫



- ・ 段ボールトーマス
トーマスのイラストを段ボールに貼り、ボールを当てる的とした。



- ・ ベースの掲示
ベースを1塁2塁とするのではなくストーリー性を重視し、ベースを〇〇駅として、「次の駅まで走ろう」と声をかけ、意欲付けを図った。



- ・ 玉入れ
かさを体育館の2階からつるし、玉入れのかごとした。高さを調整することができるようにし、児童の投力の実態に合わせることができるようにした。

(2) 児童が対話的に取り組むための手立て

○ グループ分けの工夫

投力の技能の習熟度のみでグルーピングをするのではなく、運動に親しもうとする態度も視点として、意図的なグルーピングを行った。例えば、運動に親しもうとする意欲も、投力も高いAグループと、意欲は高いが投力は低いCグループを組み合わせることで、意欲のある児童同士で、よいモデルを見ながら活動に取り組めるグループを作るなど、特性に合ったグルーピングを行った。



○ ICT の活用



児童同士が対話をする上で、よい動きの児童の映像を ICT で示し、気づいたことを出し合った。映像の中のポイントで教師が、意図的に静止画にするなど、児童がどこに着目すればよいのか焦点化し、わかりやすく提示した。

○ 作戦タイムでの関わり合いの工夫

ボールを投げる時に守備がどこにいるのか、ホワイトボードと ICT も活用し、相談させた。磁石を動かしながら、場面ごとにどこに投げるとよいか相談させた。



(3) 深い学びのある授業にするための手立て

○ 学んだことの言語化の工夫

学んだことを定着させるために、1時間ごとの技能面の学習内容に沿ったまとめをし、発表や学習カードで自分の考えを表すことを行った。発表の時に ICT を活用することで、見るポイントが焦点化され、言語に表しやすい環境を整えた。また、学習カードには、キャラクターなどを活用し、書きやすくなる工夫を行った。

4. のび太くん運動のポイントを教えてください。



○ 個々の運動の実態に応じた個別の指導の工夫

学習活動	指導上の留意点 (○指導)					
	A児	B児	C児	D児	E児	F児
6 ボール投げゲーム	○音楽をかけ、楽しくたくさん投げられるようにする。	○型を大きく回して投げよう。へそを横に添える。	○体をひねることができるよう、声をかける。へそを横に向ける声かけをする。	○まを組んで投げるよう、声をかける。	○ひじを高く上げるよう意識させる。	○手首を使って強く投げるよう声をかける。
7 スローペースボール	○投げることをまず意識させ。思いつき投げてから走るよう、声をかける。	○へそを横にするよう意識できるように、へそを向ける向きへの声かけをする。	○力強く投げられるように、足の幅の目安を示す。	○人のいないところを狙ってボールを投げるよう声をかける。	○守っている人の顔をねらうよう声をかけ、角度をつけられるようにする。	○手首を速く回す意識を付けられるよう、投げる前にフォームの確認をする。

個々の運動の実態に応じ、個別の指導の留意点を明確しに、授業に取り組んでいる。

III 研究の実践内容

(1) 調査対象

熊谷西小学校 知的・情緒障害特別支援学級
男子 15名 女子 7名

(2) 検証授業の流れ

○「トーマスになって遠くの駅まで走ろう！」
ボールゲーム領域

○「投げる」運動にポイントを絞った学習課程

「投げる」運動を「つよく投げる」「遠くに投げる」「たくさん投げる」の3つのポイントにしぼり、それぞれのポイントに応じた運動を計画した。



○慣れの運動

「つよく投げる」ために、手首を素早く振って投げることをポイントとし、紙でっぽうを使い、投げる基礎感覚づくりを行った。児童たちは、よい音を鳴らすために、何度も手首を素早く振る運動に取り組んだ。また、作り方もすぐ覚え、どんな紙にすると良い音が出るのか、どのように手首を使うと大きな音ができるか考えながら作り、休み時間に繰り返し投げる運動を行っていた。



○ボール投げゲーム



この活動でも「つよく投げる」ことを意識できるように、トーマスの段ボールに向かってボールを当てるゲームを設定した。強く投げるために ①へそを横にする。②左足を前に踏み出す。

③ボールを耳の後ろまで上げる。をポイントとした。使用したボールは、投げて遠くまで転がって行かないよう、紅白玉とした。当てる際に、「強く投げるために、紙でっぽうの時の手首を意識したほうがいい」と慣れの運動とも関連させた意見も挙がった。

○スローベースボール

「遠くに投げる」ことを意識できるようにスローベースボールに取り組んだ。

攻撃のルール

- ①ホームベースの丸の中からボールを投げる
- ②1～4へと走る。
- ③アウトと言われたら止まる。
- ④ベースを回るごとに1点とする。
- ⑤アウトになったら次の人に交代し、チームの全員が投げたら攻守交代する。



守備のルール

- ①飛んできたボールをとる。
- ②とった人の所に集まって座る。
- ③声をそろえて「アウト」と言う。



ボールは子どもの手の大きさに合った、当たっても痛くないウレタンボールを使用した。今後打つ活動にも繋げるためにも適度な硬さのボールを選んだ。



ベースを直径20cm程の丸いゴムのマットとした。どのベースからどの方向へ走るのか分からなくなることが予想されたため、マットの前に①、②、③、④と番号を付けた掲示を置く

とともに、「ティドマス機関庫」や「ナップフォード駅」などの、トーマスのストーリーに合わせた掲示をし、意欲付けを行った。

話し合い活動では、右の写真のような、守備の児童が固まって守っている場面を提示し、どこに投げればいいのか、話し合いの視点を持たせた。高学年の児童たちは「空いているところを狙って投げればいい」とすぐに気付き作戦ボード使って、低学年の児童に教える様子が



見られた。他の話し合いの場面では、遠くに投げられた児童をその場で撮影し、どうすればより遠くに投げられるか、試合の途中で話し合いの場面を作り、映像を見て意見を出させた。試合の途中で投げ方を確かめることで、よい動きを自分の動きに取り入れて活動することができるようにした。

○体力チェック

「たくさん投げること」を意識するとともに、これまでの活動で学んだことを実践する場として体力チェックを設定した。体育館の2階からロープでかさをつり下げ、玉入れのような場を設定した。ボールは紅白玉を投げるようにした。かさの高さの調整をできるようにしたため、児童の投力の実態に合わせて高さを変えることができた。また、体育館の床に引かれている線をまたぐよう声をかけたことで、へそを横にした投げ方ができるようにした。児童は投げ方の確認をするとともに、時間内にたくさんの紅白玉を投げることができた。



○まとめ

ICTを使い、本時の技能のポイントが達成できている児童の映像を提示し、よいところを見つけ合う活動を行った。ICTと言っても大がかりな機材ではな



く、一般的なデジタルカメラをテレビにつなぐだけの簡単な機材で行い、映像の一時停止や拡大などの簡単な操作でポイントを示した。児童は誰がテレビに映るか毎回楽しみにしており、自分が映るととても嬉しそうにはにかんでいる児童が多かった。映像は選ばれた児童の自己肯定感を高めるとともに、どこがよいポイントなのか、客観的に見ることで、よい教具となった。運動をしている最中も「ぼくを映していいですよ」といしながら、ポイントを意識し、代表になろうと一生懸命活動をする児童も見られた。

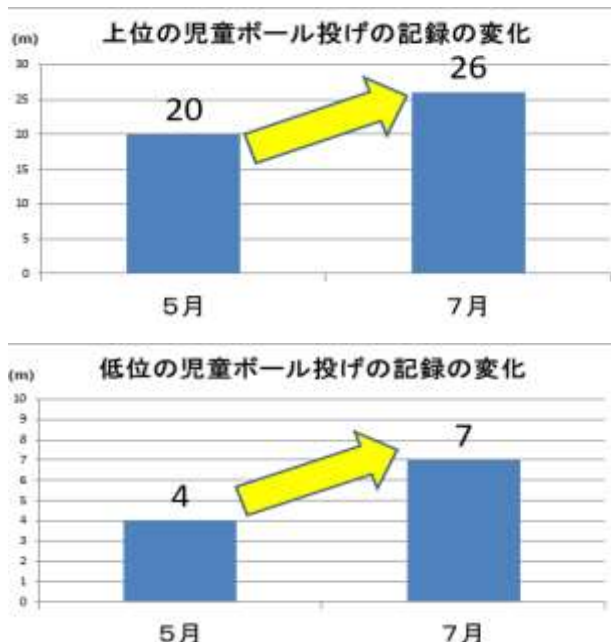
IV 研究の結果と考察

(1) 児童が主体的に取り組むための手立てについての考察

- 主体的に取り組む手立てとして、学習課程の工夫と教材・教具の工夫を行ったことで、①投力の記録が上位と低位の児童の、投力の記録の向上、②投げる技能の向上の2つの成果が見られた。

①投力の記録が上位の児童と低位の児童の、投力の記録の向上

単元前の5月に行った新体力テストでのボール投げの記録を元に、低位の児童と上位の児童の記録を、単元後に計測した記録と比較した。



②投げる技能の向上

上位・低位の児童ともに記録を向上させることができた。その要因と考えられる理由が②投げる技能の向上である。以下が低位の児童の投げ方の写真だが、単元初めの、へそが横を向いている投げ方から、単元後半にかけては、体重が後ろから前に異動するような、遠くに投げることでできる投げ方に変わっている。

・単元初め



へそが前を向いてしまう。

・単元後半



体重が前に

このように学習課程の工夫により、スモールステップで投げる技能の向上を図ることができ、投力の記録を向上させることができたと考えられる。

(2) 児童が対話的に取り組むための手立てについての考察

- 対話的に取り組む手立てとして、グループ分けの工夫や、ICT の活用、作戦タイムでの関わり合いの工夫を行った結果、投げる技能のポイントが身についたことで、運動に対して自信が付くと共に、友達との関わりが良好になったことで、運動に親しもうとする意欲の向上が見られた。単元後に保護者面談が計画されていたため、家庭での様子を保護者に聞いたところ、「外でキャッチボールをしたいと父に声をかけていました。」という児童や、「私に、投げるときは手首をぴゅっとした方がいいよとアドバイスをしてくれました。」や、「家で紙でっぽうの作り方を教えてくれました。」などの保護者の声を聞くことができた。家庭で学習の様子の話をしている様子が思い浮かべられる。また、単元の途中で、交流授業を行っている通常学級でベースボール型ゲームの授業が始まり、普段参加をしることもある体育の授業に、率先して参加しようとする姿が見られた。投げる活動や守備の動きなどに自信が持て、交流学級の友達とも良好な関わりができると感じたためと考えられる。

(3) 深い学びのある授業にするための手立てについての考察

- 深い学びのある授業にするための手立てとして、学んだことの言語化の工夫と個々の運動の実態に応じた個別の指導の工夫を行った結果、児童なりの言葉でより遠くに投げるポイントをまとめることができた。以下が児童のボール投げのポイント

ボール投げのポイントは？
シュッ！パシッ！と言わてるように。うでをはわくふる。前よりあたまで！足を「ダ」ム

ボール投げのポイントは？
てくびをあげとおくをねらてあげる。

ボール投げのポイントは？
びくを肩の上まで上げる

それぞれ習得している技能に差のある児童に対し、個々に応じた支援をしてきたことで、児童が投げるポイントを理解し、自分なりの言葉で表現することができた。

V 研究の成果

- (1) 児童が主体的に取り組むための手立てを行ったことで、投力の記録の向上と投げる技能の向上が見られた。
- (2) 児童が対話的に取り組むための手立てを行ったことで、投げることに自信が付くと共に、友達との関わりが良好になり、運動に親しもうとする意欲の向上が見られた。
- (3) 深い学びのある授業にするための手立てを行ったことで、児童が自分なりの言葉で投げるポイントを理解し、表現することができた。

以上のことにより、仮説「技能のポイントをしぼり、単元計画やルール、教具を工夫することで、児童一人一人ができる喜びを味わい、技能を向上させることができるだろう。」は検証できたと考えられる。

VI 今後の課題

- ボール投げの技能のポイントの精選をすること。
- 技能向上に向けて児童にとって魅力のある、効果的な教材・教具の工夫をすること。

参考文献

- ・「小学校学習指導要領解説体育編」文部科学省
- ・「平成31年度 学校体育必携」
埼玉県教育局県立学校部保健体育課
- ・「埼玉県小学校教育課程編成要領」埼玉県教育委員会
- ・「小学校体育 運動領域 まるわかりハンドブック」
文部科学省
- ・「埼玉県小学校教育課程指導資料」埼玉県教育委員会
- ・「埼玉県小学校教育課程評価資料」埼玉県教育委員会
- ・「埼玉県小学校教育課程指導実践事例集」
埼玉県教育委員会
- ・「すべての児童が「わかった！できた！楽しい！」を実感できる体育授業の実践」 杉浦里奈・堀部慧
埼玉県特別支援教育研究会 第57回研究協議会